

重点目標	他者理解・自己表現・集団参加・感情調整等の社会性の育成
評価基準	A：達成できた B：ある程度達成できた C：やや不十分、一部改善の余地がある D：改善が必要である

①【知的障害教育部門 小学部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○個々に応じたコミュニケーションの力を高める。 (言語、身振り、表情、サイン等)	○サイン、絵カード、感情カード一覧表等を更に充実させ、活用する。 (一覧表の追加、修正、保護者への配布等)	○児童の理解・表出できる言語・サイン等の数が増えたか。	B	・サイン等を積極的に授業で活用したことで、児童の意思表示や言語理解に伸長が見られた。新たに、場所や感情等の表現方法（サイン、カード等）を加えて指導したところ、表出できることが増えた。 ・学部全体でサイン等を統一したことで担当教員が替わっても継続した指導ができるようになった。	・これまでの実践で、コミュニケーション力が向上したので、今後も継続して指導していく。 ・中学部と連携し、系統的な支援をしていきたい。(今年度は、合同伝達会を実施)
○身近な人と好ましい関わり方を身につける。 (友達、教師、家庭・施設等で関わる人)	○学年1名の事例を挙げ、その指導方法や授業内容等を検討・検証する。 (事例検討会の実施と授業作り)	○対象児童が社会適応スキル検査等の対人関係等の項目において、数値を高め、伸長が見られたか。	B	・自分の感情の表現方法や人との適切な関わり方等が身についてきた。集団生活を送る中で共感したり、協力したりしながら活動できるようになってきた。検査等では指導の前後で児童に向上した結果が得られた。 ・事例検討会の実施により、指導経過、児童の変容について職員間で確認し、効果的な手立てを共有しながら実践できた。	・今年度の成果を次につなげられるよう、指導面で共通理解を図りながら、学部全体で取り組んでいく。

②【知的障害教育部門 中学部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○個々の実態に応じた意思の表出方法を用いて、他者と関わる経験を重ね、感情を整え良好な対人関係を築く力を身に付ける。	○言葉や発声、サイン、絵カード等を実態に応じて用い、意思を伝える学習に取り組む。 ○友達や教師とそれぞれの表出方法で意思交換をする場面を多く設け、やりとりの楽しさを味わうようにする。	○個々に合った表出方法を用い、意思を伝えたり、やりとりを楽しむことを通して、身近な相手との関係性を深めることができたか。(アセスメントの評価に向上が見られたか。)	B	・言葉やサインなどを用いた表出が増え、教師や友達とのやりとりを楽しんだり、自分の思いを発表したりする力が向上した生徒が多く見られた。アセスメント（旭出式社会適応スキル検査）では対象生徒の多くで向上が見られた。	・コミュニケーション力の向上には、長期的な取組が必要である。今後も取組に修正を加えながら継続することで、個々のスキルアップにつなげていく。
○集団生活における自分の役割を理解し、協力し合って生活する力を高める。	○学級や学年で様々な役割分担を行い、集団の一員としての自覚を高める。 ○学校生活全般において、協力し合う場面を多く設けるとともに、互いに認め合う雰囲気作り、言葉掛けを心掛ける。	○生徒個々が役割を担いながら、集団生活を送ることができたか。 ○互いに認め合いながら協力して生活することができたか。	B	・学級の係分担、作業や学校行事における役割の内容を理解し、主体的に取り組むことができるようになった生徒が多く見られた。また、学級や作業班などの集団を意識し、互いに助け合いながら生活することができるようになった。	・集団の一員であるという自覚をより高め、協力して生活していくため、今後も取組を継続するとともに、主体性をより育むため、役割の与え方や支援の方法を再検討するとよいと考える。

③【知的障害教育部門 高等部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○職業的自立に必要な基本的及び実践的なコミュニケーション能力を高める。	○作業学習等の授業実践を通して、生徒個々の課題となるコミュニケーション・対人関係等に関する指導に努め、能力の向上を図っていく。	○職業能力評価表でのコミュニケーション・対人関係面の評価において、年度当初と比べ伸長が見られたか。	C	・校内での挨拶、返事、報告等を自分から行うことが増え、産現実習でも外部の方に対して自然に実践できていた。 ・自己の課題を意識して学校生活を送る生徒も見られた。	・課題に対する共通理解を指導者間で更に深めていく必要がある。 ・伸長の度合いが数値に表れる程度ではない生徒もいる。変容をきちんと捉えて、評価表の見直しと併せて、次年度の指導に結びつけていきたい。
○社会の一員としての自覚を持ち、感情を調整しながら適切に行動する力を身に付ける。	○自分の役割と他人の立場を理解して、感情を調整しながら互いに協力し合うことができるように支援する。	○学級等の指導単位において、適切な環境作りや支援の在り方等についての検討会を設定・実施し、共通理解を持って対応を図ることができたか。	B	・教員間で日常的に話し合う機会を設け、生徒の日々の変化を把握した上で、共通認識を持って対応し、指導にあたることができた。 ・徐々に自分の感情をコントロールできるようになり、気持ちが落ち着かないときに自分からクールダウンの申し出ができるようになった生徒もいる。	・同学級以外の指導単位との共通理解がまだ十分でない。 ・感情の調整には、学校の環境調整だけでは難しく、医療との連携や保護者の理解・協力が不可欠である。 ・周りの生徒に合わせるのではなく、苦手なこと、困っていることを伝えられるようにする指導も必要である。

④【肢体不自由教育部門 小学部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
【通常学級】 ○自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、相手の立場に立った言動や行動をしようとする意欲、態度を身に付ける。	○意欲喚起を図るために道徳での題材及び自立活動の領域を主に様々な場面で設定	○場に応じた言葉遣いで的確に表現及び行動をとることができたか。		(在籍無しのため)	
【重複障害学級】 ○個に応じた表出方法を身に付け、身近な人に対する表現力を高める。	○アセスメントの継続による客観的な実態把握と授業実践での評価チェックシートの活用	○児童一人一人のコミュニケーション能力が向上したか。	B	・表出に対する的確な読み取りや実態にあった指導の継続により個々の評価を明確にすることができ、対子ども社会性や発声による意思の表出に関して伸びが見られた。	・一人一人の教育的ニーズを捉え直し、集団授業の中での個別の課題を設定していく。 ・コミュニケーション行動の伸長を客観的にみられるさらに有用なアセスメントを模索する。
○順番や簡単な約束事を理解して集団参加できる力を身に付ける。	○集団での学習機会の定期的な設定による社会性向上のための授業の在り方の継続的な検討会の実施	○検討会の定期的な開催で、授業実践の充実や効果的な支援方法検討及び児童の表出に対する多角的な読み取りができたか。	B	・定期的な検討会実施によりさらに授業実践の充実がなされ、見通しを立て順番や簡単な約束ごとを理解できる児童が増えた。	・実践記録や評価チェックシート等の様式を再検討しより活用しやすいものにしていく。 ・今後も様々な効果的な学習グループの設定を検討していく。 ・定期的な検討会の継続に加え検討内容を整理・絞り込むことによってさらに充実させていく。

⑤【肢体不自由教育部門 中学部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
【通常学級】 ○様々な人と関わる経験を重ね、感情調整をしながら良好な対人関係を積極的に築こうとする力を高める。	○交流学习や各教科学習職場体験学習等の場で、関わる人に合わせた態度や会話の指導をする。	○様々な授業を設定する中で、場や人に合わせた関わり方や話し方ができたか。	A	・芸術家との学習やボランティアとの関わり方などでは、笑顔を交えながら一緒に活動し、丁寧な言葉遣いもできていた。言葉遣いのチェックシートで、毎日評価して振り返り、1年次と比べることができることが増えた。	・慣れている教師との関わりでは、言葉遣いに課題が残る場面もあるが、振り返り場面では、本人もその事に気付いている。少しずつ意識して変えようとしている様子も見られ、継続して指導していく。
【重複障害学級】 ○様々な人と関わる表現力を高め、良好な対人関係や集団生活を築く力を身に付ける。	○実態把握をし、課程毎の学習グループの中で、個に応じた意思表示が明確にできるよう指導する。	○個に応じた表現方法で自分の気持ちを表すことができたか。	A	・各授業で個に応じた表現方法を使い、発表の機会を設けたり、言葉やサイン、文字、写真カード、発声、視線などの表現で意思表示することができた。 ・発達検査で実態把握をし、指導後変容がほとんどの生徒に現れた。	・継続して、定期的に課程会議を設けて、共通理解を図りながら指導する。
○集団生活での決まりを理解し、協力し合って生活する力を高める。	○学部全体や A 中との合同学習、交流学习等の集団の場で、決まりや態度等を身に付けられるよう、指導する。 見通しを持たせるためのスケジュールの提示や視覚的に分かりやすい教材等で指導する。	○様々な集団学習の中で、決まりを守って、落ち着いて授業を受けることができたか。	A	・視覚教材の活用、友達同士が声掛け合えるような環境作りや手本となる言葉掛けを具体的に見せた。その結果、その場の状況に合った行動や態度がとれるようになった。 ・学習内容により、様々なグループを設定し、色々な人と関わるようにした。その結果、学習の見通しが持て、順番を理解し、落ち着いて取り組めた。 ・学部全体での学習では、他者を理解している様子が見られた。	・集団学習の場を定期的に設定し、指導を継続していく。

⑥【肢体不自由教育部門 高等部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
【通常学級】 ○豊かな人間関係に必要となる自己の能力に応じた実践的なコミュニケーション能力を高める。	○それぞれの学習を通して自己意識の確立に働きかけると共に、他者承認の意義等についても理解を深め、社会参加の上でも重要になる相互理解のためのコミュニケーション力の基礎を育てる。	○コミュニケーション活動を相互理解の機会としてもとらえることができたか。 ○ビジネスの諸活動に適切に対応するための基本的なコミュニケーション力を身に付けることができたか。	A	・グループ学習で意見を取りまとめる役割を担い、メンバーに意欲的に働きかける姿勢をうかがうことができた。 ・「職業」の授業の中で職場内のコミュニケーションの重要性を学習し、現場実習で活かすことができた。	
【重複障害学級】 ○集団生活、社会生活で必要となるコミュニケーション能力を高め、主体的に対人関係を築く力を身に付ける。(重1)	○日常生活の指導、生活単元学習、作業学習の中で、挨拶や基本的な報告、意見発表、相手の意見を聞く等を十分に行い、基本的なコミュニケーション力を身に付ける。	○コミュニケーションの意義や便利さをよく理解し、積極的に身に付けようとすることができたか。	B	・発表の場を多く設けて伝える経験を重ね、様々な場面で自分から発信しようとする姿勢がうかがえるようになった。 ・クラスの友達同士でお互いに気に掛ける様子が見られるようになってきた。	・生徒それぞれの発信の方法を教師間で共有する機会を確保し、生徒のコミュニケーションへの意欲のいっそうの向上を図る。
○社会生活における決まりを理解し、感情を調整しながら適切に行動する力を身に付ける。(重2)	○日常生活の指導、自立活動の指導の中で、指導する教員が代わっても自分なりの方法で意思や気持ちを表出しようとするができる。	○教員は生徒の意思表示をその生徒に係わる教員間で十分に確認することができたか。	B	・教師同士が生徒の意思表示を共通理解することで教師が代わっても生徒が安心して意思表示をする様子が見られた。	・検討会等により生徒の意思表示の方法や定着の状況等について検証を深める。

⑧【ひばり分教室】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○学級や教室全体の中で、自分の役割や分担を果たしたり、意識したりすることができる。	○特別活動や総合的な学習等において、活動の目標や児童生徒の実態に応じた集団を設定し、役割や分担がある活動を実施する。 病状により活動への参加が難しい児童生徒には、個の能力に応じた役割や分担を設定したり、意識できるように促したりする。	○自分の役割や分担を果たしたり、意識したりできたか。	B	・集団の設定が難しい状況のときもあったが、活動や成果について記録を蓄積した。これらを次の指導の働きかけ等に生かすことで少しずつだが、自分の役割を意識して取り組む様子が見られるようになってきた。	・今後も一人一人が意識できるよう促したり、指導場面設定の工夫に取り組む。
○思いやりを持って友達と関わることができる。	○友達の様子を伝えるなど、友達に意識を向けるように促す。 教師が思いやりを持って接することで、相手を思いやる気持ちを涵養する。	○思いやりを持って友達関わろうとする姿が見られたか。 評価は、教師による支援の記録と児童生徒の行動の記録に基づき、教師全員の合意により決定する。	A	・学部会の児童生徒の様子で思いやりを持って関わることもできた場面や評価を共有することで教師自身がより意識して指導に当たることができた。 ・登校できない生徒を思いやるなど友達のことを意識する行動が多く見られるようになった。	・教師間での共通理解を引き続き行い、指導に生かす。

⑦【訪問教育学級】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○ 身近な人に対する表現力を高め、安定した態度で集団活動に参加する力を身に付ける。	○児童生徒の好きな活動を通して、「楽しい」「もっと」等の表情やサインを引き出すような働き掛けをする。 ○表出の乏しい児童生徒については、丁寧な働きかけと観察及び記録を継続し、授業に活かしていく。	○各児童生徒の実態に応じた表情やサインによる発信を1回の授業で1回以上、引き出したり確認したりすることができたか。	B	・各児童生徒の好きな活動を授業に取り入れた結果、「もっと」「早く」などの気持ちを表情の変化、発声、身振りなどによる表出を毎回の授業で1回以上促すことができた。	・医療的ケアが必要な重度障害の児童生徒については心拍数や表情などを観察しながら意思の表出を探っているが、発信の確認には限界がある。
	○「集団で学習する機会」を可能な範囲で設定し、参加が実現できるよう保護者や施設職員に協力を要請していく。	○友達と一緒に集団活動に参加することができたか。 （星風院入所児童生徒） ○年間2回、集団学習（「音楽家との交流」、「夏休み集団学習」）に参加できたか。 （在宅児童生徒） ○年間2回以上、集団学習（学校行事、訪問行事、交流学习など）に参加できたか。	B	（1）始業式・終業式、「音楽家との交流」「夏休み集団学習」には4人全員参加できた。また、2名は11月半ばまで週1～2回程度教室にて小集団学習を行うことができた。回を重ねるにつれて落ち着いて学習でき、友達を意識する様子も見られた。さらに、1名は「本校での授業」を月1回程度実施できた。施設側の都合により中止となったこともあった。 （2）在宅児童生徒が訪問や所属学部の校外学習への参加を予定していたが、体調不良のため全て参加することができなかった。2名とも運動会に参加し、交流校生（栃農高生）と関わることもできた。また1名の児童は「壬生高交流」に1回参加することができた。	・在宅児童生徒やベッドサイドで授業を行う児童生徒の集団学習の場の設定には限界があるが、次年度以降も集団学習の場を設定していく。

⑨【寄宿舍・舍務部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○集団生活の中で適切なコミュニケーション方法や気持ちの安定を図る方法の指導に努め、自分らしい余暇活動を充実させる。	○舎生自ら学校や寄宿舍行事に興味関心を持たせる。	○ブロック職員・舎担が取り上げた話題に興味を示し会話ができたか。	A	・職員から、学校や寄宿舍での話題を取り上げることや、行事予定を提示したこともあり、ブロック行事や全体行事について話題にすることができ、行事にも楽しく参加することができた。	・天気や災害などの身近な話題やニュースに関心が持てるように職員から働きかける。
	○余暇時間にＴＶのニュースを流し、話題に取り入れる。	○社会のニュースを聞き話題にできたか。 ○身近なニュースを聞き話題にできたか。	B	・一部の舎生ではあるが、スポーツニュースなどを見ることで共通の話題が増えて会話が生まれることや、悲しいニュースを見て当事者の気持ちを考えた発言が増えた。	
	○趣味の講座（19回）において楽しめる内容にし、他の舎生と関わりを持たせる。また、各講座に職員が二人は入り、一人が指導にあたり、一人は舎生の様子を見る。	○楽しめる内容にすることができたか。 ○他の舎生の意見を聞きながら、自分の考えを話すことができたか。	A	・舎生の意見をアンケートなどで把握し反映したことでみんなが楽しめる内容となり、舎生同士関わりを持ちながら活動することができた。	・一人一人に合う安定する方法を検討し、また、感情表出できるように支援していく。
	○職員間で連携を図り、舎生の心の安定を図る。	○舎生自らが、気持ちの安定を図る方法を知ることができたか。	B	・舎担を中心に舎生一人一人の性格や実態を把握し、職員間で共通理解することで概ね落ち着いて生活することができた。また職員から安定を図る方法を提案し、自分に合う方法を知り自ら心の安定を図ろうとする舎生もいた。	

⑩【教務部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○基本研修等を通し、社会性の育成に関わる指導力の向上を図る。	○基本研修等での研究授業や課題研究の中で、社会性の育成に関連する取組について検討、考察できるよう、研修を展開していく。	○研修者各々が、研究授業や課題研究を通して、社会性の育成に関連する一連の指導状況（実態把握、目標・学習活動の設定、指導の展開・変容、成果等）を評価し、報告書等にまとめることができたか。	B	・研究授業や課題研究の中で社会性の育成を念頭に取り組み、確かな児童生徒の変容を捉えることができた。研修者だけでなく、社会性の育成に向けた指導の在り方や姿勢、学習の目的に対する十分な吟味など、学年や学部全体の指導力向上にも寄与できた。	・これまでの取組の成果について共通理解を図り、今後も継続して日々の指導に当たっていく。

⑪【情報部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○児童生徒の他者を理解しようとする気持ちや態度の育成につながるようなソフトの効果的な活用法の啓発。	○具体的操作を交えた研修の実施。	○研修後のアンケートにおいて、５段階評価の満足度で平均４以上だったか。	A	・アンケートの結果は４以上であった。しかし、希望研修であり、元々関心のある職員の評価のため高評価だった、とも考えられる。	・参加率は３０％程度であるため、職員の希望も考えながら、多くの職員に啓発していけるよう、内容や周知方法を考えていく。
○情報発信をするときに、正しく情報を扱うための情報提供。	○情報モラルや情報セキュリティに関する内容の伝達講習の実施。	○各学期１回以上の伝達講習を実施できたか。	A	・研修は予定通り実施できた。職員室毎の研修で、時間が十分に確保できない職員室もあった。	・十分に時間を確保できるよう、研修の日程等を調整する。

⑫【学習指導部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○社会性の育成に向け、教員間や学部間で連携を図りながら児童生徒の実態に即した指導を行う。	○個別の指導計画の実態、年間目標、学期の目標の社会性に関する項目に下線を引き、検討会等を通して関わる教員全体が共通理解を図って指導に取り組むようにする。	○個別の指導計画検討会を適切に実施し、児童生徒の実態や目標等を、関わる教員が共有し、連携を図って指導を行うことができたか。	B	・社会性の育成に関する項目の目標に下線を引いたことにより、検討会や評価において関わる教師が共通理解を持って実態に即した指導を行うことができた。	・様々な学習集団で指導を行う教員同士が共通理解を図り、より良い指導に反映させていけるように検討会を適切に実施する。
	○学校全体の研究テーマを「社会性の育成」と関連付けて設定し、組織的な取組を促す。	○学部全体で研究に取り組み、社会性の伸張に向け、効果的な実践を行うことができたか。	B	・「社会性の育成」をテーマに各学部で研究を組織的に行い、児童生徒に実践的な指導を行うことができた。	・次年度の研究テーマについては、なるべく早い時期に決定し、計画的に取り組めるようにしていく。
○学校内外の様々な人との関わりの中で、自らの思いを表出したり、主体的に他者に働きかけようとする力を養う。	○学部集会において、異なる部門や学年の児童生徒と関わる機会を設定し、主体的に他者と関わっているように促す。	○学部集会に児童生徒同士が関わる活動を学期1回以上取り入れ、自分なりの方法で関わりを持とうとすることができたか。	B	・学部集会や学年集会、ブロック集会など学級の枠を超えた集団学習の機会を学期に1回以上設定できた。他者との関わりが自分なりの方法で持てるようになってきた。	・集会や行事以外にも、他学部や異なる部門の児童生徒と関わる機会が持てるように検討していく。
	○校外学習等において、児童生徒が他者とやりとりする場面を設定したり、適宜捉えたりして関わりを促す。	○「様々な人との関わり」を校外学習等の視点の一つとして全職員に周知を図り、計画的に実践することができたか。	B	・校外学習や修学旅行などの行事の中で、教師が他者と関わりが持てるような場面を設定し、児童生徒が様々な人と関わる機会を持つことができた。	・様々な学習活動を通して、児童生徒が主体的に他者と関わる場面が設定できるように、教師の意識向上を目指していく。

⑬【交流教育部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○各学部の交流活動及びボランティアスクールの紹介	○実施後、活動の様子や講座の内容をHPに掲載	○毎回掲載することができたか。	B	・回数は多くなかったが、掲載することができた。	・今後も情報部との連携を深めながら継続して取り組む。
○交流活動及びボランティアスクールで得られた成果の周知	○交流は実施後に活動内容と成果をまとめて掲示、ボランティアスクールはアンケートを実施	○交流実施後、2週間を目安に作成掲示、またアンケートの集計結果を回覧し、周知できたか。	B	・遅れることもあったが、おおむね交流実施後2週間程度で活動内容の掲示をすることができた。 ・ボランティアスクールを実施した後にアンケートを行い、集計した結果を回覧することができた。	・今年度から児童生徒の変容についても触れるようにしたが、内容としてはまだ検討の余地がある。 ・アンケート結果からニーズを分析し、次の講座に活かせるようにする。

⑭【生徒指導部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○教育相談により、児童生徒が安心して生活できるように努める。	○教育相談週間を利用して計画的に相談に取り組むとともに、相談のしやすさ等環境整備も図る。	○相談後のアンケート結果で、相談に満足した児童生徒の割合が90%以上だったか。	A	A 高では100%の満足だった一方で、評価基準では図れない児童生徒も存在している。	・具体策に受動的（消極的）なスタンスだけでなく能動的（積極的）スタンスも取り入れ、評価基準も合わせる。
○児童生徒の社会的自立に向け、学業指導に努める。	○「帰属意識の高い学級づくり」「一人一人の実態に配慮した授業作り」に向けた取組の充実を図る。	○取組の経過を確認し、児童生徒の変容が見られた学級が80%以上だったか。	A	「学業指導の充実」に取り組む中で、いじめに関する保護者アンケートの結果が向上した。	・引き続き継続するとともに、児童生徒個々の変容、学級全体の変容という観点も取り入れてアンケートを実施する。

⑮【健康指導部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○児童生徒の食に対する興味・関心を深めると共に、食事の大切さやマナーを身に付けられるように努める。	○各学部で児童生徒の実態に合わせて、食事の大切さや食事のマナー、摂食についての食育授業を実施する。	○食育授業後アンケートをとり、児童生徒の食への関心の深まりやマナーの向上が見られた児童生徒が8割以上いたか。	B	・アンケートの結果、食への関心や知識は8割以上が向上する事ができた。食のマナーに関しては、7割であった。	・来年度も引き続き実態に応じた食育を行えるよい。 ・食事のマナーは、授業だけではなく給食などでも取り組めるようにしていきたい。
○食に関する情報を保護者に提供することができる。	○食育だよりを通して、食に関する情報を提供する。	○年間4回以上食育だよりを発行し、保護者に配付する。	A	・今年度4回以上の食育だよりを発行することができた。 ・家庭での食事に活かせるような内容であった。 ・家庭と学校が連携できるような内容であった。	・来年度も学校と保護者が児童生徒の食事について連携がとれるような内容を検討しながら発行をする。

⑯【進路指導部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○進路だよりを通し、進路指導に関する情報を職員や保護者に提供する。	○卒業後に向けた児童生徒の社会性の育成に向け、校内・校外での活動内容を掲載した進路だよりを年4回以上発行する。	○年4回以上進路だよりを発行することができたか。	A	・定期的に発行することができた。（3月に残り1回発行予定）	・保護者に分かりやすく、活動内容や情報等を今後も伝えていく。
○個々のコミュニケーション能力の向上を図る。	○日常の学習だけでなく、校内における実習や産業現場等における実習を通して反省を生かし、個々のコミュニケーション能力の課題を明確にし、向上を図る。	○実習等を通して、実践、反省を行い、個々の課題を明確にし、学習の中で活かすことができたか。	B	・実習で出た課題を担任と共有し、学校生活の中で次の実習や卒業後に向け改善できるようにした。	・今後も、個々のコミュニケーション能力の向上できるよう、生徒の課題等、共有し、改善に向け取り組む。

⑰【渉外部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○社会性の育成に関する各種総会（講演）、研修等の報告。	○社会性の育成に関する各種総会（講演）や研修の資料を回覧、シェアポイントに掲示。	○回覧やシェアポイントで毎回報告することができたか。	B	・研修の資料を回覧等でほぼ報告することができた。	・毎回情報提供できるよう、渉外部内で連絡調整して共通理解を図る。
○家庭教育啓発のための研修等の情報提供。	○保護者に研修や講演会の案内を配布。PTAだより号外の発行。	○年間3回以上案内を配布することができたか。号外を年間2回以上発行することができたか。	B	・保護者のニーズに応じた研修や講演会の案内を配布したところ、毎回数名の参加があった。 ・研修、講演会の内容を抜粋してPTA号外に掲載し、啓発を図ることができた。また、希望者には講演会の資料を配布した。	・学級員や本部役員の合同会議でも連絡し、参加を促していく。 ・号外はカラー用紙に印刷して配布する。また、PTA活動の理解を深めるため、活動報告も行っていく。

⑱【地域支援部】

評価項目	具体策	指標	評価	成果・取組状況	反省・改善
○行動上の問題とその指導支援の方法に関する情報の提供	○地域支援部通信の定期的な発行	○年間6回以上発行することができたか。	A	・7回発行できた。通信を読んだ先生方から「家庭でも参考になると思うので、保護者に配付してはどうか」や、外部から（研修時に配付）「自校の研修でも活用し、好評だ」との感想を頂いた。	・引き続き情報発信を行っていく。
○コミュニケーションに関する情報の提供	○夏季休業中の研修会の開催	○参加者の8割が「今後の指導支援に役立つ」と答えたか。	B	・「2学期の指導支援に役立つ情報が得られた」が57%、「今後、必要な児童生徒がいたら活用したい」が43%で、参加者に有益な情報を提供できたと考えられる。	・先生方のニーズを把握し、指導支援に役立つような研修内容を検討する。

